

なばり

2020年(令和2年) 12月25日発行

主な内容

- 2…なばりの10大ニュース2020
- 4~5…市立病院だより「きらり」
- 6…年末年始の市の業務
- 8…年末年始の医療機関

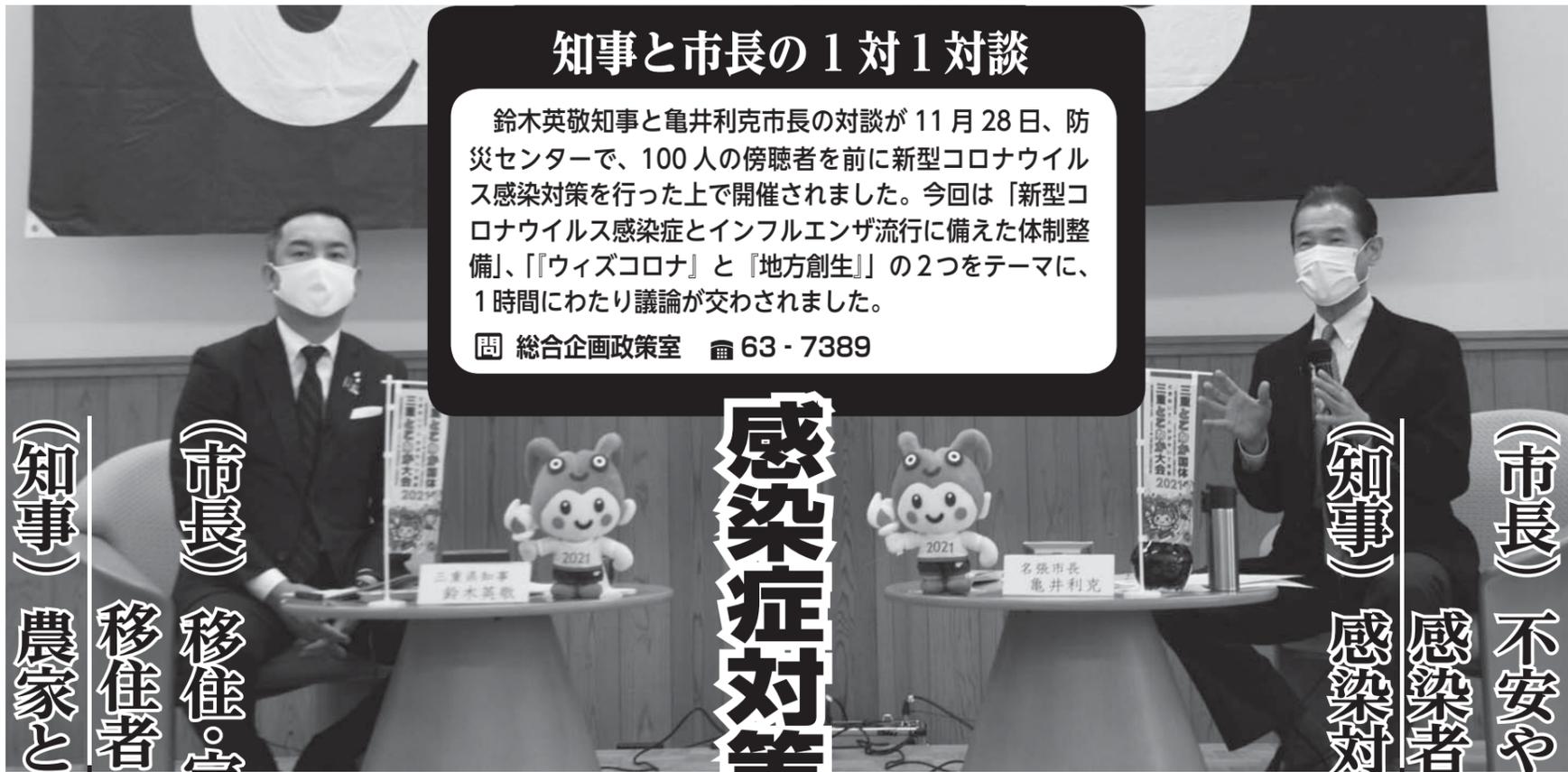
⚠ 催しへの参加は、マスク着用など感染防止にご協力ください(催しは中止・延期の場合あり)

発行/名張市秘書広報室 〒518-0492 名張市鴻之台1-1 ☎ 0595-63-7402 FAX 0595-64-2560 ✉ pr@city.nabari.mie.jp

知事と市長の1対1対談

鈴木英敬知事と亀井利克市長の対談が11月28日、防災センターで、100人の傍聴者を前に新型コロナウイルス感染対策を行った上で開催されました。今回は「新型コロナウイルス感染症とインフルエンザ流行に備えた体制整備」、「『ウィズコロナ』と『地方創生』」の2つをテーマに、1時間にわたり議論が交わされました。

☎ 総合企画政策室 ☎ 63-7389



知事

市長

知事

市長

農家とマッチングする仕組みを検証

移住者への農業支援を進めたい

移住・定住の流れを止めてはならない。

市長 今起きている大都市から地方への移住・定住の流れをさらに加速させる対策が必要です。国には「移住支援金」として、東京圏から地方に移住される人に最大100万円を交付する制度があります。大阪や愛知から移住される人も交付金の対象に拡充するよう、一緒に国へ働きかけていきませんか。知事 「移住支援金」は、対象が

市長 名張に移住してきた人は、「農業」をされている人が多いように思います。リモート(※)で仕事をしています。会社に出勤するのは1週間に1回だけで、空いた時間に農業をしているという人もいます。地域の人も、移住者に農地のあっせんや提供、作物の作り方の指導などに協力していただいているようです。地域には、野菜づくりや水稲づくりなど農業の「達人」がいますので、そういう人たちに「有償ボランティア」として登録させていただき、移住者が気軽に達人に農業の指導をお願いできる仕組みをつくりたいと考えています。

知事 移住者が一から農業を始めるのは大変ですので、アプリなどを活用して、移住者と農家をマッチングするしくみを検証します。

感染症対策と地方創生について新たな提案

市長 市では、8月20日に名賀医師会の協力により「PCR検査センター」を立ち上げ、新型コロナウイルス感染症の検査体制を充実させてきました。また、市立病院では、県からの要請を受けて、感染症患者が入院・治療するための病床を確保するとともに、感染症専門の医師と看護師を確保するなど、万全を期して感染拡大に備えた体制整備

を進めています。市民と接する場面の多い基礎自治体として、感染症に対する対応・対策の環境を整えておく必要があります。そこで、回復された感染者に対して、県がアンケート調査を実施してはいかがでしょうか。感染された時に一番不安だったことや困ったこと、市や病院への要望などをお聞きし、今後の感

染予防や感染対策に活用させていただきます。知事 県では、インフルエンザとの同時流行に備えて、入院・治療のための病床数を十分確保しており、また、一日最大6600件の検査を実施できる体制を整えています。アンケート調査については今後の感染対策に生かすために必要ですので、実施に向けて準備を進めます。◎市長からの提案を受けて、県は、12月下旬から来年1月末まで、感染された人にアンケート調査を行い、退院後の症状や不安に感じた内容などを無記名で回答してもらい、支援策の検討などに活用することを発表しました。

不安や困ったこと、病院への要望など
感染者にアンケート調査の実施を
感染対策につなげるため、実施したい

